

「芽が出ない」のか
「芽を出さない」のか

「長い下積みを経てやっと芽が出る」とか「苦節〇年、ようやく芽が出てきた」など、幸福がめぐって成功のチャンスが見えるこ

と感じているからであろう。咳かれた職員にも、言い分はある。

「目に留まらない」

「注目されない」

「鳴かず飛ばず」

「恵まれない」

転期に立つ経営の視座³⁵
芽が出る前に根を伸ばせ

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。『介護ビジョン』編集委員。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人材創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ!経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

とを芽が出るという。

人材として成長できないままにいる職員に対して「(一向に)芽が出ない」と咳く管理者がいる。

「伸び悩んでいる」

「燻っている」

「パツとしない」

「今ひとつ結果が出ない」

「ツキがない」

と、愚痴を口にする者が多い。

「芽が出ない」のか、「芽を出さない」のか。それとも「芽を出せないでいる」のか、「出た芽が摘まれてしまった」のか。

収穫したばかりのジャガイモは、数カ月の間「芽が出ない」。いや、

出ないのでなく、出すための条件が整っていないだけのこと。スーパーなどで購入したジャガイモを冷蔵庫の野菜室に入れるのは、5℃に設定された環境のもとで保管することによって「芽を出さない」ようにしているからである。

また、箱買いのジャガイモのなかにリンゴを1個入れるだけで、しばらくは「芽が出ない」ところが、青いバナナの箱のなかにリンゴを1個入れると黄色く色づいて熟すのが加速する。リンゴの成分に含まれるエチレンガスの発生によつてジャガイモの芽は出にくくなり、バナナは熟成が促される。「芽が出る」ための人材育成を行ってきたであろうか。

種を蒔くだけでは育たない

人材育成について、家庭菜園に例え「種を土に蒔くだけでは育たない」「種を蒔くだけでは収穫はできない」と主宰塾で問いかけた。

ある受講者から、「芽に適した土壌で畑をつくる。適切なタイミングで植える。適切に水やりをする。適切に陽にあてる。害虫のケア——」などなど。人材を育てるのも同じ。他の成功事例を模倣すれば、結果がすぐに出て当然という思いを抱いたことがある。だが、上辺(種を撒く行為)だけを真似しても、すぐに結果など出ない。その背景を理解し、土壌づくりのような地道な努力を継続しなければ収穫はない。種を蒔けば芽が出るのではない。種を蒔くのか。どこに蒔くか。蒔く畑はあるのか。その地域の特性をよく見極めた畑づくりをしてきたのだろうか。家庭菜園から人材育成のあり方を見直してみたい」と所感が届いた。

家庭菜園といえども、まずは土づくりから。病気にならない美味しい野菜を育てるには、土づくりを欠いてはならない。根がよく伸び、水分や肥料を十分に吸収できるように土を掘り起こし、土のなかに空気が入るすき間をつくることも大切である。野菜の根がよく張るからだ。

「(一向に)芽が出ない」と咳くだけではちがいがあかない。「芽が出る前に根を伸ばせ」

「根が伸びる土壌をつくる」

良い土の条件は、水はけが良く、水持ちが良く、通気性が良いこと。人材育成のための経営環境(土壌)づくりに活かしたい。